

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091600157		
法人名	社会福祉法人 豊生会		
事業所名	グループホーム 西牟田		
所在地	福岡県久留米市三潅町西牟田6323-9		
自己評価作成日	平成24年11月5日	評価結果確定日	平成24年12月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&ji_gyosyoCd=4091600157-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成24年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居様の尊厳を保持し日常生活において家庭的な雰囲気大切に、ゆっくり安心して生活が出来る様に。またご本人様の持っている能力を最大限に引き出し自立した生活が送れるように。またスタッフは笑顔で接する事を心掛けています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅街の中にあり、広い敷地内では散歩や日光浴が出来、片隅でサツマイモや葱等を植えて、成長や収穫の喜びを味わっている。柿の木もあり、干し柿作りも楽しみの一つになっている。ご本人の持っている能力を最大限に引き出すために、ジャガイモの皮むきや調理の得意な方には味付けなど手伝ってもらったり、お裁縫の得意な方などには縫い物を頼んだりして、自立した生活が送れるように支援し、年長者としての尊厳と笑顔で接することを心がけている。「家庭的な雰囲気の中で、自由にゆったりとした暮らしを支援します。」等の理念を毎朝、職員で唱和し、職員全員で理念を共有し実践につなげている。2ヶ月前に施設管理者が変わり、新管理者となったからは、利用者への生活支援や、サービスの質の向上をよりよくしたいと意欲的に取り入れられ、職員の質を高める事にも積極的な取組みが勧められている。今後、さらなるケアの向上に向けての取組みや発展が期待できる事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所に理念を掲示し、毎朝の朝礼時に職員全員で唱和し実践につなげる様に取り組んでいる	新人職員の入職時に理念の説明を行っている。日頃のケアで問題が起こったときは、理念を振り返り、毎月のミーティングで話し合い、問題点をお互いで反省しあっている。毎朝のミーティングでは職員全員で理念を唱和し、利用者が家庭的な雰囲気の中で、自由にゆったりとした暮らしを過ごせるように取り組んでいる。	毎朝礼時に唱和し、理念の共有が図られているが、現在の理念は法人全体の理念で、事業所独自の理念ではない為、今後は職員一人ひとりの思いがこもった理念を作り上げ、地域密着型サービスの意義や役割を考えながら、取り組みをされる事に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議開催時、区長・民生員・市議員・包括支援センター・長寿介護課の方と意見、交流を図りながら行事計画に沿って行動を行っている	町内会に加入し、運動会や敬老会の行事参加案内等も頂いている。今は利用者の体力が落ち外出や参加が難しい状況であるため施設の祭りやカラオケ大会等を敷地内で開催しており、地域の方が大勢来て頂けるように働きかけている。その他劇団の慰問があったり、近隣には市議会議員や区長の方がいて、いつも気にかけてもらい日頃から交流が行われている。	町内と積極的な交流が行われているが、更に地域との関わりを深めていくことが望まれる。地域の小中学校等との交流を広げ、近隣の子供や住民に、事業所のことをよく知ってもらう活動や、市議会議員等の協力を得ながら、交流の取り組みが行われていくことに今後は期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で必要に応じお話しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて日常の状況や、活動を報告して、参加者からアドバイスを頂きサービス向上に向けて取り組んでいる	2ヶ月に1回開催し、市議員、長寿介護課、包括支援センター、民生委員、地域区長、各ユニット管理者等が毎回参加されている。事業所の要望を伝えたり、相談やアドバイスや、情報提供等を受け施設サービスの向上改善に努めている。	運営推進会議に、利用者や家族の参加が無い為、今後は家族にも案内を出し、参加を促すことが期待される。利用者や家族の意見等を活かしたサービスの向上を目指し、議事録を開示し閲覧できるような仕組みや、欠席者に対しての報告を行っていくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時ホームの状況を詳細に伝え同時にアドバイスを頂いている	毎回の運営推進会議に、市の職員の出席があり、入所者の紹介や、アドバイスなど日頃から気軽に相談出来る体制が整えられている。市議会議員の協力もあり、街灯の設置要請や事業所の実情などを伝えたり、積極的に事業所の質の向上に向けた連携と取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止事項をまとめ、職員の目につく所に掲示し日々の業務において身体拘束をしないケアの実践に向けて全職員で取り組んでいる	身体拘束の禁止事項を事務所に掲示し職員全員に周知を図っており、身体拘束は行われていない。玄関も施錠する事無く、利用者は自由に外出し、スタッフは見守りで付き添っている。言葉での制止等にならない様に言葉掛けも職員同士で注意や声掛けを行い、全職員が気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会、勉強会に参加を促し、虐待についての知識を深めながら防止に努めている		

自己・外部評価表(GH西牟田)H24.12.25

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会には参加を促しミーティングで発表の場を設け全職員で考え活用出来るように支援している	自立支援制度を利用されている利用者もおられ、包括支援センター等に相談しながら、対応されている。今後は全職員の権利擁護の理解を深める為に、研修会や事例を通しての勉強会等が検討されている。	権利擁護についての研修会が行われていないため、年間研修計画予定表を作成し、定期的な外部研修や内部の伝達研修を行うことが望まれる。全職員が権利擁護について学び、理解を深めて行かれる事や、パンフレットや印刷物等の設置などをしていくことに今後は期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の凍結・解約時は管理者や担当者がご本人様やご家族様に十分に説明を行い理解及び納得して頂ける様に努めている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置してご利用者様・ご家族様より不満や苦情が出た場合は即座に全職員で考え運営に反映出来るように努めている	各ユニットに意見箱を設置し、意見や苦情には即座の対応に努めている。最近の意見や苦情は無く、来訪時に直接意見を伺い対応している。日頃口頭で言えない利用者に対しては、表情を見ながら毎日の申し送り等で職員間で話し合いながら、本人の要望の抽出に努めている。	苦情相談の記録用紙が無い為、来訪時の家族の意見や要望が運営会議等で取り上げられていない。今後は受付表などによる記録の作成や整備を行う事が望まれ、家族参加の運営推進会議を行い、家族の意見や要望を取上げて行く事が望まれる。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているミーティングや責任者会議で職員の提案や意見などを話し合いながら運営に反映させる様にしている	日頃から管理者は職員の意見や要望を聞き取り、職員間での情報交換と併せて、サービスの検討や改善に反映させている。毎月のミーティングと法人の責任者会議によって事業所内、グループ間での情報・意見交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考慮してもらえる様に職員も努力している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢・性別に関係なく採用を行い、持っている能力を最大限に発揮出来る様にサポートする。また自己実現が図れる様に考慮している	職員の採用時の制限は特に設けていない。採用後は資格取得や研修に関しても、職員にパンフレット等を回覧し、資格取得に向けて勤務体制への配慮も行っている。それぞれの能力を発揮出来、働きやすい職場になっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居様の人権を最大限に尊重したサービスを行うように心掛け研修や勉強会に積極的に参加を促し知識を深める様に努力している	利用者に対しての言葉遣いには特に気をつけており、ゆったりとした声掛けや、さり気ない声掛けや、羞恥心に配慮した優しい対応を心がけている。毎年外部での人権研修は受けており、今後は内部へ伝達研修を行っていく予定である。	

自己・外部評価表(GH西牟田)H24.12.25

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報は毎回回覧し研修で得た知識を実践に生かす様に意識改革を進めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをして	外の施設と交流する持つ様にしているがまだ不十分である。他施設との交流が図れサービスの質の向上に向けて取り込む事が出来る様に努力している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の段階でご本人様の困っている事・不安・要望などを十分に伺い安心して頂ける様にサービスの提供を行う事で良い関係作りに努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の話を聞き不安を解消出来る様なサービスを提供する事により安心して頂ける様な良い関係作りに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の話を聞き不安を解消出来る様なサービスを提供する事により安心して頂ける様な良い関係作りに努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様ご家族様よりきちんと基本情報を頂き良く話し合いをしながら最適な支援方法が出来る様に対応している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家庭的な雰囲気作りを心掛け日常生活を共にする良い関係が築ける様にしている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人との面会やなじみの場所への希望の訴えが有った時には希望に沿える様に支援している	入居前の生活状況の把握を行い、本人の要望で馴染みの病院受診や、美容院へも行かれています。職員同行で遠方の墓参りに行ったり、ドライブで近くへ行く時は本人の馴染みの場所を回っている。本人の要望で馴染みの場所へ行きたい時は、家族へ連絡を取る等して対応している。家族へ苑だよりを2～3ヶ月に1回送付し、本人の状況を報告し、家族との関係も良好に保てる様に配慮している。	

自己・外部評価表(GH西牟田)H24.12.25

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人様ご家族様よりきちんと基本情報を頂き良く話し合いをしながらベストな支援方法が出来る様に対応している。利用者同士が関わり支えられる良い関係作りが出来る様に支援している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても必要に応じ出来る所は支援する様に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族の要望を聞き本人が何を望んでいるか把握に努め、共同生活の中で困難な場合も有るが家族の協力を得ながら出来るだけ本人の要望に応えている	入所時のアセスメントと定期的な見直しによって、思いや意向を把握している。意思疎通困難な方は本人の表情等から判断し、職員間で確認し話しあい、本人本位の意向の把握に努めている。日々のケアを記録しながら、利用者ごとの情報を全員で共有し検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・既往歴・ADL状況の情報収集を基に見えてくる本人の生活環境を良く把握し、生きがいや、楽しく生活出来る様に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の有する能力の把握(何ができるか)を見極め活気が出る様に日常生活の中でスタッフと一緒に楽しんで出来る事を実践している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人・家族の要望を聞き(看護師・ケアマネ・介護スタッフ)で検討会議が開かれそれぞれ意見を出し合い全職員周知に努めている。実践の状況等も毎月のミーティングや申し送りで話し合い共有している	家族の要望等を確認し、本人の要望を取り入れて介護計画を作成しており、月1回のミーティングで話し合いを行っている。モニタリングは状況変化時や3ヶ月に1回行い、必要に応じて介護計画の見直しや、担当者会議を行っている。	状況変化時や、介護計画の見直し時の担当者会議等に、家族や利用者の参加が出来ておらず、説明のみになっている為、今後は家族や利用者の参加を行っていく事が望まれる。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録ケースは毎日記録し変化が有った状況(新対面・精神面・)等その記録部分に青色枠で囲みすぐ目に留まる様にしている。また朝の申し送り、申し送り簿で報告、情報を共有し実践につなげている		

自己・外部評価表(GH西牟田)H24.12.25

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対応出来る様に職員間の連携を図りながらより良いサービスが出来るように取り込んでいる		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・区長・市議の方たちに声をかけて頂いていますが現実的には参加が思う様に出来ていないのが実情です。これから徐々に参加し楽しみを持って生活して頂ける様に支援行っていきたい		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医の関係を尊重し連携を図っているが専門病院の協力の必要とする事が多い。健康管理は主治医に協力をお願いしている	月に2回提携医の往診があり、週3回看護師による健康管理も行われている。事業所内でインフルエンザ等の予防接種も受けられる。家族で病院受診の対応が出来ない時は、施設送迎で看護師が付添い受診を行っており、入居前からのかかりつけ医の受診継続も支援している。家族送迎での受診時でも、情報提供や状態把握の為に、看護師が常に同行し支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の日常における小さな変化や異常に素早く気づき看護師に報告行い指示により適切に処置が行える様にしている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供。病院関係者との情報交換やご家族様とも今後の方針について相談に努めより良い関係作りに努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対しては主治医やご家族様との説明の機会にて納得のいかれるまで必要に応じての移送を選抜している	重度化した時は、看護師が24時間対応していない為、対応出来ない事を入所時に説明し、緊急時の病院等の連絡先の聞き取りを行っている。必要に応じた協力機関等への紹介や、支援体制は出来ている。	入居時に本人、家族に終末期ケア対応指針の説明を行っていたが、マニュアルが無く、重要事項説明書に終末期の事業としての方針が明記されていない為、今後はマニュアル作成と、明確な事業所方針を示した同意書の作成されることが望まれる。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に備え救急講習を定期的に行っているがすべての職員が実践力を身に付ける様に努めていきたい		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し火災・地震などの災害時に素早く対処出来る様に日頃から意識を持って行動が出来る様にしている	年2回、日中に消防署立会いの下、施設全体の各ユニットが協力して避難訓練を実施している。避難場所の玄関前の広場まで、安全に迅速に誘導出来る様に配慮しながら、スムーズな訓練が実施されている。	年2回、日中の訓練は行われているが、夜間を想定しての避難訓練や地域との連携ができていない為、今後は近隣住民へ、火災訓練等の参加の声掛けを行い、近隣の住民の協力を得て行く事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居様の個々の能力に応じ声掛けや対応を行っている。基本的に職員はプライバシーを損なわない様に注意している	利用者のプライバシーを尊重し、排泄等の声掛けも側で小さな声で、さり気ない声掛けを行う様に全職員が配慮している。1人ひとりの人格の尊重やプライバシーの保護等については、ミーティング等で話し合い、注意し合っており、定期的な研修を通しての勉強会は今後行っていく予定で進められている。	利用者のプライバシーを尊重し、定期的な研修を通して勉強会も行っていく予定だが、個人ファイルや書類は、鍵が無いキャビネット内に保管してある為、今後、鍵の取り付けを行い、個人情報が出しにくい様に検討していく事が望まれる。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の能力に応じて思いや事故決定が出来る様にしている。また表現が難しい人は表情・しぐさ・態度などにて思いをくみ取り事故決定が出来る様に支援している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居様のペースにて生活して頂ける様に希望を最優先に考慮して行動している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の能力に応じてお洒落や好みの服を選んでいただく様に支援している。また利用・美容はご本人様の希望に合わせて頂いている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好にも配慮しながら献立を決め能力に応じて職員と一緒に食事の準備・配膳・下膳・後片付けなどのお手伝いもして頂いている	季節の行事食や希望を取り入れながら1週間単位の献立が組まれ、毎日職員が新鮮な食材を購入している。元気な方は買物や下ごしらえ、調理なども一緒に行い、楽しみの日課となっている。利用者に合わせて専用のハンや茶碗の利用や、刻み食やミキサー食も提供されている。利用者の「頂きます」の掛け声と一緒に食事し、介助が必要な方には職員が側に付添い、ゆっくりと見守りながら食べられている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ残しや飲みのこしが無いように栄養摂取や水分摂取をきちんと把握し同時に一人一人の状態に合わせて携帯・メニューにも対応している		

自己・外部評価表(GH西牟田)H24.12.25

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の能力に応じ3回の食後は口腔ケアを行い口腔英kつが保持出来る様に支援している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し個々に応じてトイレ誘導を行いトイレにて排泄が出来る様に取り組んでいる。オムツ等の使用に関しては現状を職員で日々意見行いながら対応している	利用者の各自室内にトイレがあり、ゆったりと介助や排泄ができ、職員も羞恥心等に配慮し声掛け等に気をつけて対応している。排泄チェック表があり、本人に合わせた排泄時間等の把握に努め、パット等の使用回数が減っている利用者もおり、自立支援に向けた対応が行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならない様に配慮しながら献立を立て排便に良いメニューを心掛けている。また排便困難者に対しては看護師による指示にて個々に応じた対応をしている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や入浴時間は職員サイドで決めず入居者様の希望される日時にゆっくり楽しんでもらえる様に個々に対応している	週2～3回の入浴が提供されている。個浴で広い浴槽と洗い場があり、毎日3人程度がゆったりと入浴され介助が行われている。入浴時間の希望は可能な限り対応している。入浴剤等も利用し入浴の楽しさを増やしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いろいろな事に取り組む際ご本人様の体調・状態に応じての声掛けを行うようにしている。夜間は特に気温調節などを気掛け安眠できる様に努めている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬はスタッフ全員で把握・理解している。状態の変化には看護師に包書く・指示を仰ぎながら退所。その後も状況の変化をその都度報告行っている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔からやっておられた仕事として得意な料理作りや家事活動に参加して頂いたり気分転換の一環として玄関先への散歩や外出等にも積極的に取り組んでいる		

自己・外部評価表(GH西牟田)H24.12.25

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は季節に応じひまわり・コスモス・バラ見学等のドライブに出掛けたり外での外食・おやつ等を食べる機会を設ける様にしている	季節の花見以外に、毎月のドライブを取り入れており、車椅子の利用者も外出し、外出先で楽しい雰囲気でお食いやオヤツを食べている。天気の良い日は施設の広い敷地内で外気浴や散歩が出来ている。2～3ヶ月に1回、季節の花見やドライブ等の写真を苑便りで家族に送付している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預金として職員が管理行っているがご本人様の希望が有れば預り金より自由に買い物が出来る様に対応している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望時は自由にご家族様等に電話したり手紙を出したり出来る様に支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物周囲には柵など無く玄関入口にはベンチを置き気軽に休憩が出来る様にしている。また建物の周囲に花を植えたりして家庭的な雰囲気作りに努めている	皆の顔が見え、いつでもコミュニケーションが出来る位置に大きなソファが置かれている。大きな明るい窓には、夏はゴーヤや朝顔が植えられグリーンカーテンが作られ、ゴーヤも成長を楽しみ収穫して食べたとの事。壁には花見の写真等や、利用者の手作りの作品や、入居前に書いた絵画や作品も飾られている。利用者と職員で共同制作した、季節の飾りやサンタクロース等の飾りつけが居間や廊下にも飾られ、華やかで明るい雰囲気づくりとなっていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	清潔を心かけ季節感の有るインテリアを心掛けたり写真や手創り作品等を掲示しゆったりとした空間で過ごして頂ける様にしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの有る家具や仏壇等を持ち込まれ自宅と同じ様に安心して自由にゆっくり過ごせる様に配慮している	居室内にトイレや洗面所があり、本人の希望や体調に応じて、自室を和室や洋室にも変更できる。本人の馴染みのタンスや仏壇が置かれ、家族の写真や飼っていた犬の写真も飾られている。テレビが置かれ、自室で静かに、本人の気に入った番組を見られており、居心地良い、落ち着いた環境が整えられている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の移動がしやすい様に、また安全に移動が出来る様に広い空間になっている		